

奥日光 御真仏薙

棚橋

【日時】 2014 年 5 月 31 日 (土)

【メンバー】 L 佐貫、棚橋

当初は会越国境のスラブ登りに行くつもりであったが、残雪や天候、気温その他諸条件を鑑みてこちらの計画となった。個人的には、奥日光の沢は本当に久々だ。

5 月 31 日 晴れ

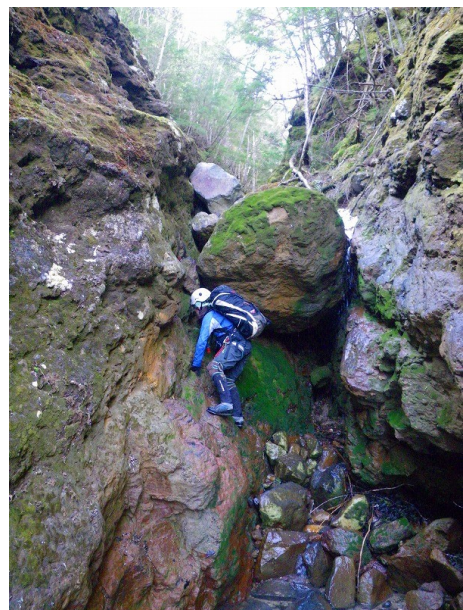
日本屈指の観光地である日光にて仮眠を取った後、裏男体林道に車を走らせる。駐車指定地には既に 2 台ほど止まっていた。入渓地点まではまだ少し距離があるが、工事車両が入るようなので迷惑を掛けてはならないと、我々もここに止めて歩き出す。

しばらく歩き、橋の架け替えを行っている湯殿沢橋が、御真仏薙に架かっている橋だ。かなり荒れた感じで、入渓というより入薙といった感じか。堰堤を 4 つほど越すと苔の生えている赤茶け岩盤が現れ、一種独特な雰囲気醸し出している。3m 滝を越えると早くも雪渓が現れる。この辺りの溪相は地形図からもわかる通り、斜面を爪で深く引っ掻いたようなゴルジュ地形で、そこに雪が詰まったようだ。北面でもあるし、やむを得ないか。雪渓が切れるとまた滝が続く。大岩の詰まった 3m 滝は佐貫が弱点を突いて取り付いたが、ザックが邪魔になるようなので空身で登る。

その後も雪渓と滝が交互に現れ、出て来る滝もそれほど困難ではなく、リハビリ中の私にはありがたい。しかし Co2100m を超えると殆ど雪で覆われるようになり、すぐに登山道に上がれる二俣にて 1 本取り、今後の行動について協議する。不安定な雪渓上を歩いて踏み抜き等で怪我するのも嫌だが、まだ 9 時半なのでこのまま男体山まで詰めることにする。

雪渓歩きはそれほど長くは続かなかったので、先程登山道にエスケープしないで良かった。所々岩盤が出てきたりと相変わらず独特な味を出していたが、上部はガレた感じとなる。こんなあたりも薙と言われる所以か。

稜線には人の姿が確認できるので、我々の行動は上から丸見えなのだろう。山頂に行ってみると





夥しい人数に驚いた。男体山は百名山だったのだ。ゆっくり休憩を取った後、志津乗越を目指して下降する。登山道も所々雪に覆われているので、滑らないように気をつけて下りる。山頂にはあれだけ登山者がいたのに、こちらは推奨されていないルートなのか人が少ない。お陰で静かに下りられて良かった。

志津乗越に下りると丸太が所々転がっており、下山者に優しいなあなどと思って休んでいたが、よく見るとどうやら車を止めさせないためのバリケードのようだ。林道をしばらく歩き、駐車指定地へと戻った。

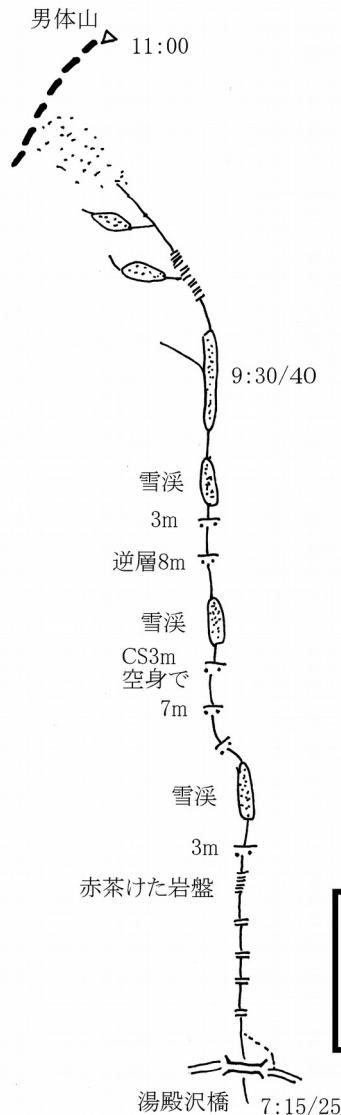
残雪が多く、雪渓歩きに終始してしまったので、今度は雪の無い時期に訪れてみたい。なお薙とは山の崩れ落ちたところや山が崩れ平らになりつつある状態を言うようだが、神事として祓い清める意味もあるようだ。

【グレード】1級上 (滝が雪で埋まっていたので)

【行程】

5/31 駐車地点 (6:50)
 ~湯殿沢橋 (7:15/25)
 ~Co2150 (9:30/40)
 ~男体山 (11:00/20)
 ~志津乗越 (12:50)

【地図】男体山



奥日光／御真仏薙
 【日時】2014年5月31日(土)
 【メンバー】佐貫(L)、棚橋
 【作図】棚橋